

大慈会 ヴァンベールだより

Vo. 1

2020. 8. 24 発行

TEL: 0848-64-7851

E-mail: vent_vert
@miharahp.com

ごあいさつ

ヴァンベールだより創刊によせて

古藤 歩

平成28年2月に開設し、今年で5年目を迎えます。開設当初は0からのスタートでしたが、現在の登録者数は116名となりました。ヴァンベールを利用される皆様にとって、わたしたちはどのような存在でしょうか。計画相談では、半年に1度しかお会いしない方もおられ、半年に1度の面談で困りごとなどに気づくことができているだろうか…相談支援事業所としての役割が果たしているだろうか…といった思いを抱きながらも毎日が過ぎ去り、4年が経ちました。

この度、スタッフから「“必要な時には思い出していただける存在”でありたい」といった声があり、機関紙「ヴァンベールだより」を定期的にお届けすることになりました。内容としては、ヴァンベールの活動内容や障害福祉に関連する情報、生活に関する情報…などを考えています。

この機関紙がヴァンベールと利用者の皆様とを結ぶものになると嬉しいです。



トピック1

ヴァンベールってなにをすることで?



今回はヴァンベールでおこなっている、地域移行支援・地域定着支援と計画相談支援についてご紹介します♪ヴァンベールでは、皆様の「地域で安心して自分らしい生活がしたい!」という思いをサポートしていきますので、どんな些細なことでも、気になることなど出てきた時には、お気軽にご相談ください。

✓ 地域移行支援・地域定着支援

施設や病院で暮らしていた方が、地域で生活を始めようと思った時、当事者や周りの家族にとっては、大きな不安を抱えることとなります。不安な思いや、地域生活での希望などをお聞きし、障害福祉サービスや、地域の社会資源の情報提供、関係機関との連携などをおこないながら、安心して地域での生活がスタートできるようにサポートします。地域生活開始後も、必要に応じて、緊急時のサポート体制を整え、安心して生活を続けていけるように、一緒に考えています。

✓ 計画相談支援

初めて障害福祉サービスを利用する時、または、すでにお持ちの受給者証が更新となる時には、「サービス等利用計画」を作成する必要があります。一人ひとりの「希望する生活」をお聞きし、その思いを中心にしながら、サービス等利用計画を作成していきます。困っていることや、不安なこと、今後チャレンジしたいこと（夢や希望）などお聞きしながら、「希望する生活」に近づくための方法や必要なことなどを一緒に考えていきます。

(名手)

4月に異動がありました



すでに遠い記憶になっている方も多いと思いますが、今年の4月に病院相談室に異動となりました。ヴァンベールで担当させていただいた方には、自分の至らなさから色々ご迷惑をおかけしたかと思えます。どうか過去のこととし、ご寛恕いただければ幸いです。

ヴァンベールに在籍するまでも約10年間は病院で勤務しており、この度「相談支援事業所」という福祉の領域で、4年間活動できたことは自分にとってとても貴重な経験となりました。これまでいろいろな方と、生活の基盤づくりを一緒にしてきましたが、“地域で安心して生活するため”には、人的ネットワークが不可欠であるという事を常に感じていました。

ご存じの方もおられるかもしれませんが、車椅子の小児科医で有名な熊谷晋一郎さんが、著書の中でよく「自立とは依存先を増やすことだ」と書かれています。病気の有無に関わらず、人が生きていくために一人でできることは限られているため、困った時に相談できる場所や人を増やすことが、地域で自立した生活につながるという考え方です。

異動となりましたが、今後も相談される方が、地域で安心して生活できるよう、ヴァンベールでの経験や築いた人脈をいかしながら、一緒に問題に向き合っていければと思っています。

小越 信也

4月からヴァンベールに配属になりました。私は平成27年に入職し、三原病院の相談室にて勤務しておりました。病院時代は患者さんと一緒に外出する時間が好きで、相談室にいないことのほうが多いような働き方をしていました。ヴァンベールでは、より皆さんの生活に近いところでお仕事ができそうで、とても張り切っています。

といっても、私の人生経験では分からないことのほうが圧倒的に多いのも事実です。一緒に悩んだり、調べたりしながら、皆さんの人生の一部にご一緒できれば…と思います。ヴァンベールは常時顔を合わせたり、直接サービスを提供する機会こそ少ないですが、何かあった時には（良かったことでも悪かったことでも）、「あ、ヴァンベールに聞いてみよう！」とお願いいただけるような存在でありたいと思っています。よろしくお願ひいたします！！

渡辺 大貴

トピック2

マスク熱中症に気をつけましょう



コロナ禍の中、季節に関係なく、マスクを着用することが日常化してきましたね。これから、夏を迎えるにあたり、例年よりもいっそう熱中症に注意していかなければなりません。厚生労働省が示している熱中症予防のポイントの一部をご紹介します！

マスクは飛沫の拡散予防に有効です。ただし、マスクを着用していない場合と比べると、心拍数や呼吸数、血中二酸化炭素濃度、体感温度が上昇するなど、身体に負担がかかることがあります。したがって、熱中症のリスクが高くなるおそれがあるので、屋外で人と十分な距離（少なくとも2m以上）が確保できる場合には、マスクをはずすようにしましょう。マスクを着用する場合には、強い負荷の作業や運動は避け、のどが渇いていなくてもこまめに水分補給を心がけましょう。外出時は暑い日や時間帯を避け、涼しい服装を心がけましょう。

（厚生労働省ホームページより抜粋）

【ご連絡】次回は1月に発行予定です。「このような内容を載せて欲しい！」など、ご希望があれば、ご遠慮なくご連絡ください。